

久留米市男女平等推進センタージャーナル

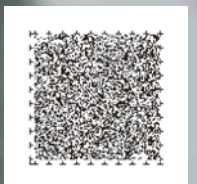
JOURNAL

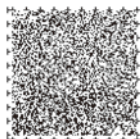
特集

令和3年度

男女平等推進センター事業計画

2021 vol.67





女性の働き方応援事業

これまで働く女性の数は非正規での就業が多いものの年々増加傾向にありました。しかし、昨年からのコロナ禍の状況は経済分野にも影響を及ぼしており、雇い止めや求人数の減少などにより有効求人倍率は令和2年1月頃を起点に下降線をたどっています。特に非正規で就業している女性は、その影響を大きく受けています。

令和2年度はコロナ禍ではありましたが、働く意欲を持つ女性が「起業」「就職（再就職）」など自分にあった働き方が選択できるよう、2つのセミナーを実施しました。

起業応援セミナー 10月3日～11月28日（全5回）

コロナ禍の状況だからこそ、働き方の多様性は求められるため、起業して働きたい方を対象とした講座を実施しました。自分のこれまでの経験を社会で活かしたい、在宅で出来る仕事を自分で作りたい、一度は起業を考えたが基本的なことを学び活かしたいなど、色々な思いの人が受講されました。

セミナーでは、消費者の行動や考えを理解すること、SNSを活用した商品・サービスのPRのやり方、ビジネスとして継続するためのお金のことなど、多岐に渡り学んだ後、最後に事業計画の発表を行い自分の思いを具体化していきました。

受講を重ねていくごとに積極的な意見交換が行われるなど、知識の習得とともに、受講者同士で起業に対する意識を高めあっていました。



SNSによるPR例を確認

就職応援セミナー 11月10日、11月17日

働く意欲を持つ女性を対象に、これから就職していく上で必要な制度（労働法など）や就業中で問題が生じた場合の相談窓口の紹介などを、筑後労働者支援事務所と連携して実施しました。

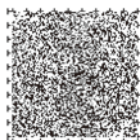
ハローワーク久留米と連携し、履歴書・職務経歴書の書き方を学び、また、キャリアコンサルタントの講師から模擬面接などで実践的なアドバイスをいただきました。参加者は不安要素を払拭し、就業につながる知識を習得しました。

参加者の声

- 職務経歴書の書き方など学べてよかった。
- 面接のセミナーなど受けたことがなく、いつも緊張していたので、今回の知識を役に立てたい。
- 求職について、具体的に教えていただいた。



男女平等推進センターでは社会で活躍したい女性に向けて、自身の経験やスキルを活かしライフスタイルに合わせた「働く」ことについて、今後も講座等を通じて情報を発信していきます。





学生と社会人のワールドカフェ

これからの自分をデザインする！

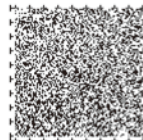
11月29日



講師・コーディネーター

和栗 百恵さん

(福岡女子大学国際文理学部准教授)



学生×社会人=可能性

ワールドカフェとは、カフェの様にリラックスした状態で、小グループで席替えを繰り返しながら様々なテーマを自由に意見し合う話し合いの手法です。毎年短大や大学等の学生を対象に本講座を実施しています。今年度は、初のオンライン開催となり31名の学生が参加しました。

対面では社会人と話すことに緊張や不安があるという学生もいましたが、オンラインではリラックスして自分なりの考えや思いを伝えていました。例年とは異なる生活様式、先の見えない将来に参加者がそれぞれの不安や疑問を抱えていたようで、ワールドカフェが始まると、PC画面越しではありましたが頻りに参加者同士で意見が交わされていました。学生だけでなく参加した社会人も、学生の考えや思いを知ることによって自分の考えを再確認したようでした。参加者全員が各グループでの意見交換を通して「自分の想い」を磨く充実した時間を過ごしたようです。

ライフステージをどう考える

就職・結婚・転職・子育て等、考え方や思いは人それぞれ異なります。自身の将来または現在がよりよいライフステージとなるには、多くの視点を取り入れ考えることも重要となります。

男女共同参画の視点や、男女年代別就業率、賃金のグラフ、育児に関するデータを具体的に見たうえで各パートのテーマについて、社会人や学生同士で意見交換をしていきました。

「なぜ働くのか」など人によって考え方は異なります。働くことをどのような「機会」としてとらえライフステージをどのように設計しているのかを学生や社会人と意見を交わしながら深く考えていきました。

「もしも結婚したら子育てや家事、介護は女性がする？」「主夫なんてもってのほか？」私の家では「当たり前」だったことが話してみたら「当たり前ではない」ことがわかったことに気付く学生もいました。

参加した学生は社会人の先輩達や同年代の学生と意見を交わすことで、自分の価値観や考えに「気付き」新しい視点を生み出し変化していったようです。

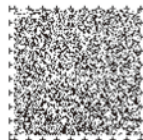
これから社会にはばたく学生には男女共同参画の視点とともに、講座で得たものを自身のライフプランに活かしてほしいです。

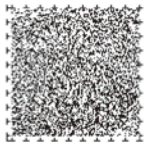


オンラインでの参加者の様子。多くの意見が飛び交っていました。

参加者の声

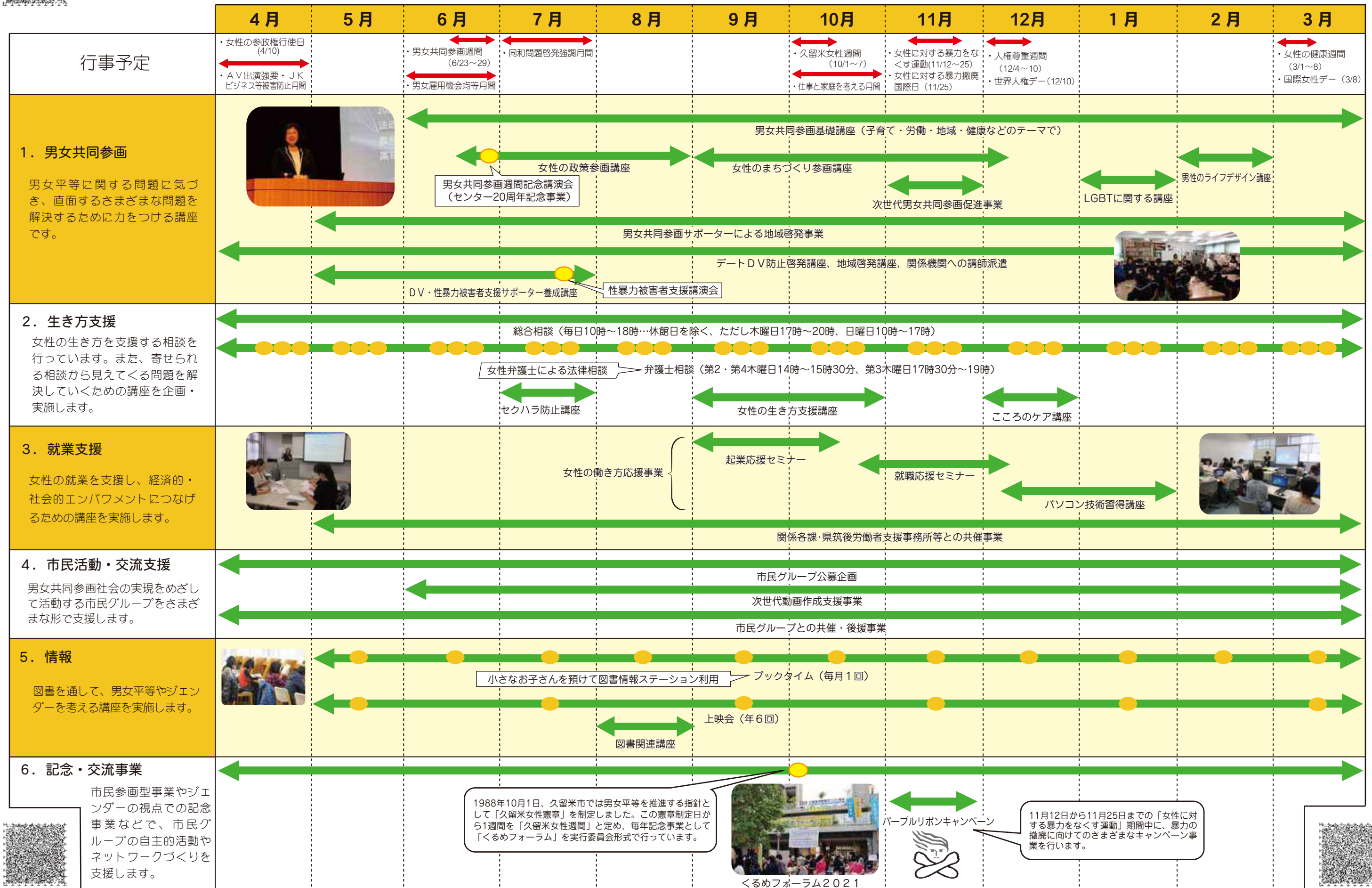
- ◎自分の意見に対して社会人の意見を交えて深めていったことが面白かった。また同じ学生同士でも全く違う意見がでて自分の世界が広がった。
- ◎一見関係なさそうな男女の給与の差などのグラフから、「それでも働く理由は？」と聞かれたときに悩んでしまった自分を発見できた。
- ◎人と話すことで自分の考えが炙り出せてよかった。働くこともまだ実感がない。親の偉大さや感謝を感じた。結婚観は人それぞれで面白かった。
- ◎他の方の考えを聞いて自分の価値観を広げられた。

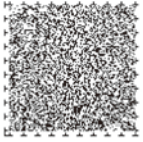




令和3年度 男女平等推進センター事業計画

久留米市男女平等推進センターでは、今年度もさまざまな講座やイベントを企画し実施していきます。新しい発見、新たな出会い。これからの生き方のヒントが見つかるかも?! ぜひセンターの事業に参加してみませんか!





3月8日は

国際女性デーです



毎年、3月8日は国際女性デーです。かつて女性には、選挙での投票などを始め、政治への参画が認められていなかった時代がありました。しかし女性にも男性と同じ権利があると、世界で女性たちの運動が起こりました。そのような動きの中で最も大きな出来事となったのが、1904年3月8日にアメリカで起きた、女性労働者による婦人参政権を求めるデモです。このデモをきっかけに、1910年にコペンハーゲンで開かれた国際社会主義会議で、3月8日を「女性の政治的自由と平等のために戦う日」と提唱されました。その後、国連が1975年を国際婦人年とすることを宣言し、同日を「国際女性デー（国際婦人デー）」と決めました。

2021年国際女性デーのテーマは「リーダーシップを発揮する女性たち：コロナ禍の世界で平等な未来を実現する」です。女性の社会参画とリーダーシップに対して根深く残る社会的・構造的な要素に加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大によって新たな障壁が現れました。

世界中のいたるところで、女性たちは家庭内暴力の増加や無償のケア労働、失業や貧困に苦しんでいます。

昔に比べれば女性の社会進出が進みましたが、世界経済フォーラムが公表している各国の男女格差を示す「ジェンダー・ギャップ指数*2020」では、日本は153ヶ国中121位ととても低い結果となっています。政治・経済共に重要な意思決定の場への女性の参加率の低いことと、男女の賃金格差が主な要因です。この機会に男女共にジェンダー平等について考え、私たち一人ひとりに何ができるのか考えてみましょう。

表紙の写真はミモザです。イタリアでは3月8日を「フェスタ・デラ・ドンナ (FESTA DELLA DONNA) =女性の日」と呼び、男性から女性へお花を、特にミモザを贈る日として定着しました。次第にこの文化が世界に広がり「国際女性デー」は「ミモザの日」とも呼ばれるようになりました。

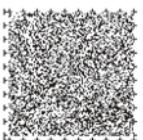
第5次男女共同参画行動計画閣議決定

令和2年12月25日、国において新しい令和の時代を切り拓き、ポストコロナの「新しい日常」の基盤となることを目指し、第5次男女共同参画行動計画（以下、「第5次計画」という。）が閣議決定されました。

●第5次計画の取組

新計画では、新型コロナウイルスの感染拡大などによる社会情勢の変化を踏まえ、「持続可能かつ国際社会と調和した経済社会の実現に不可欠な、国民一人一人の尊重、能力発揮、意思決定への参画」、「性別に捉われることなく自らの選択によって長い人生を設計することができる環境の整備」を課題としています。

この課題解決に向けて、具体的な目標と施策が定められています。例えば、雇用の分野では、男性の育児休業取得率や民間企業の役職に占める女性の割合の上昇を成果目標に挙げ、ワーク・ライフ・バランスの実現やハラスメント防止などに取り組むこととしています。また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うDV・性暴力相談の増加から、女性に対するあらゆる暴力の根絶に向けた支援体制を進めています。



●久留米市でも計画を策定中

久留米市も、現在、令和3～7年度を期間とする第4次男女共同参画行動計画を策定中です。新型コロナウイルスの感染拡大でジェンダーに基づく女性の生きづらさがさらに顕在化している中、「男女の自立と男女共同参画社会の実現」に向けて次期計画に基づき、さらに取組を進めてまいります。

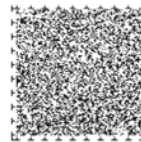
第5次計画における成果目標（抜粋）

項目	目標
衆議院議員の候補者に占める女性の割合	35%
民間企業における男性の育児休業取得率	30%
認定農業者に占める女性の割合	5.5%
大学の理工系の教員（講師以上）に占める女性の割合	理 12.0% 工 9.0%
離婚届における「養育費取り決めあり」のチェック割合（2022年度まで）	70%
市町村防災会議の委員に占める女性の割合	15%（早期） 更に 30%

【問合せ：男女平等政策課 電話 0942-30-9044/FAX 0942-30-9703】

相談につながって ～つらいおもいをしているあなたへのメッセージ～

男女平等推進センターに以前ご相談されていた方からお手紙をいただきました。「多くの方に相談につながってほしい」という思いが込められておりましたので、ご本人の承諾を得て、ご紹介します。



○相談するまでの経緯

日頃より毎日のように飲酒をする夫でした。私が子どもを保育園へ預けてパートをしていましたが、子どもが病気がちで休みが多く、お給料は少なく生活は苦しくても、お酒をやめることはありませんでした。夫にとって、唯一のストレス発散だと思い、私から止めることもありませんでした。

しかし、様々な事柄によりお酒の量も増え、暴言も増えてきました。我慢に耐えかねて離婚を切り出すと、暴言が悪化し、物を投げつけられ、子どもと私は安心して眠ることが出来ず、精神的に不安になっていき、私は日中の仕事もまともに出来なくなりました。

そんな時私が憔悴しきっている状態を知った知人が、自立支援センターを紹介してくれました。そこから、男女平等推進センターへ繋いでいただきました。このご縁は、私にとってとても大きな転機となりました。

○相談から行動へ

「よく頑張られましたね。」初めて担当の方にお会いした時の言葉です。その時の私は、自分が頑張っているなど少しも思っていなかったため、私にとって忘れられない一言になりました。

帰宅してからの緊迫した環境や、私が殺されるかもしれないという子どもたちの心配している様子などを目の当たりにして何日も過ごすうちに、正常な判断が出来なくなり、ただただ毎日涙を流しながら働く日々。そんな中で、相談して自分で決めて行動するという日々が始まりました。一つ一つ行動する。迷うこともあります。涙しか出ない日もあります。でも、前に進むしかないので。過去には戻りたくない、今の現状を変えたい…その気持ちだけで生きていました。

○今思うこと

今、離婚して3年がたち、落ち着いて思うことは、助けてくださる方の手を掴むことです。自分一人ではとても登れない状況でも、導いてくださる方との出会いの手を離してはいけません。きちんとその手を掴み、今日の前にある大きな山を登ってください。そうすることによって、新しい景色が見えてくるのです。

私は、あなたに早くそのことに気付いていただきたい。今は目の前のその出来事だけしか見えていなくても、あなたの周りには、必ず救いの手を差し伸べてくださる方がいらっしやいます。その手を掴んで下さい。そして、一緒にその山を登ってください。その方々は、そっと寄り添ってくださいます。そのことに気付いていただきたく筆をとりました。子供たちも今は明るくなり元気に学校に通っています。



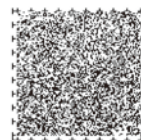
私は今、自分の人生を新しく送っています。
とても幸せに生活していますよ。

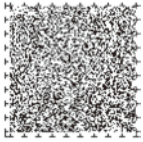


ひとりで悩んでいませんか？

女性のための総合相談 0942-30-7802

【受付時間】月・火・水・金・土…10時～18時 木…17時～20時 日…10時～17時





相談室だより

～男女平等な社会を考える～

●相談室から見てきたもの

日々の相談の中で、何か分からない「辛さ・心の重たさ」を語られる女性たちがいます。本来はとてもしっかりあるにも関わらず、自分の無力さを訴えたり、「夫に反論してしまった」と、夫に対しての反省の弁を語る女性たちもいます。その背景には、生育歴の中で、無意識に培われてきた「女性はこうあるべき」という「ジェンダー」の影響があると思われます。令和元年度、久留米市男女平等に関する市民意識調査では、「男は仕事、女は家庭」という考え方(固定的性別役割分担意識)に同感しない人の割合が女性69.0%男性63.6%となっています。同感しない人が増加傾向にあるものの、今もなお「女性の家庭内での役割は大きい」という意識や現状があります。

●男女平等な社会

女性たちは、家庭内での「家事・育児・介護」に多く携わっていて、社会に向けての活躍がしづ

らい状況に置かれています。2016年4月には、女性活躍推進法が施行されました。この法律は女性が働きやすい環境づくりを企業に求める法律です。しかし、女性活躍社会と言われて、どのくらいの変化があったのでしょうか。企業における女性役員数に関しても諸外国と比べて、未だに低い状況にあります。

子どもの頃から「ジェンダー」についての理解を進めていくことも大切な事だと思います。まずは、家庭内において男女平等意識改革を始めることが、地域、社会、国における意識の改革に繋がっていきます。

相談室では、女性たち一人一人が輝いて生きていくことができることを願って、一緒に進んでいきたいと考え実践しています。一人で悩まず、まずは男女平等推進センターにお電話ください。

スポーツとジェンダー 図書情報ステーション

今年、東京オリンピック・パラリンピックの年です。東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムには「多様性と調和」というメッセージが込められているそうです。スポーツを通じてすべての人間同士がつながりあえるよう願いを込めて、今回は、スポーツとジェンダーに関連する本を紹介します。

●編集・発行●
令和3年3月

久留米市男女平等推進センター

〒830-0037
久留米市諏訪野町1830-6
えーるピア久留米内
TEL. 0942-30-7800
FAX. 0942-30-7811
URL. <http://www.city.kurume.fukuoka.jp>
E-mail. danjo-c@city.kurume.fukuoka.jp



女性・スポーツ大事典 子どもから大人まで課題解決に役立つ

スタウロウスキー／編著 西村書店 2019.5

女性スポーツの歴史、女性特有の生理学はもとより、性の問題、ハラスメント、加齢、障がい者スポーツ、学校や組織での役割など、女性とスポーツに関わるあらゆる問題に切り込んだ本。著名選手の赤裸々なエピソードやインタビューなども掲載され興味深い内容。



女性アスリートの教科書

部活女子からトップ選手まで、必ず伸びる、強くなる、指導者・保護者が知っておきたい40のこと

須永美歌子／著 主婦の友社 2018.8

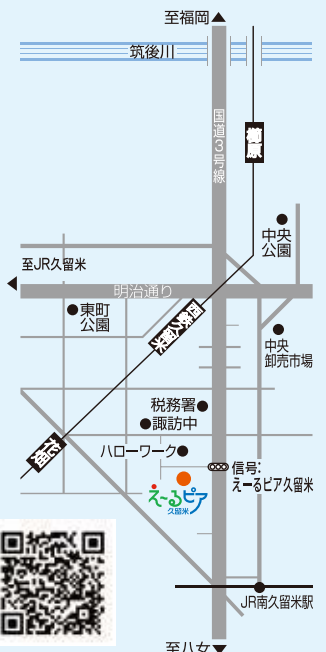
女性と男性、どこが違う?月経のこと、心とモチベーション、体重管理、コンディショニング方法、貧血を防ぐ食事…。スポーツ女子にまつわる気がかりを解消できるよう、イラストや図表を使ってわかりやすく説明。



不滅のランナー人見絹枝

田中 良子／著 右文書院 2018.10

日本女性初のオリンピックメダリスト、人見絹枝の一代記。100m、200m、走幅跳の元世界新記録保持者として活躍し、女性選手育成のため尽力した指導者としての生涯を描く。



- 徒歩/西鉄久留米駅から約10分(約700m)
- バス/西鉄久留米駅から約5分
JR久留米駅から約20分
「税務署前」下車、徒歩5分
- 駐車場(有料)はございますが、おいでの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

この広報誌は環境に配慮し、再生紙を使用しています。